

令和6年度 授業改善推進プラン



大田区立徳持小学校

令和6年度 授業改善推進プラン 目次

学力向上を図るために	3
小中一貫授業改善プラン重点観点及び重点指導事項一覧（蓮沼中校区）	
・・・	4
1 国 語	・・・ 5
2 社 会	・・・ 8
3 算 数	・・・ 10
4 理 科	・・・ 14
5 外 国 語	・・・ 16
6 生 活	・・・ 17
7 音 楽	・・・ 18
8 図画工作	・・・ 20
9 家 庭	・・・ 22
10 体 育	・・・ 23

学校・地域の実態や願いなど

児童の実態
本校の教職員の願い
家庭・地域の実態
保護者の願い

学校の教育目標

○考える子 ○やさしい子 ○つよい子

教育関係法規など

日本国憲法
教育基本法
学校教育法
学習指導要領
教育委員会の教育目標
東京都教育ビジョン
おおた教育ビジョン

家庭、地域社会、他の学校や関連機関との連携

○家庭と協力して基本的生活習慣を身に付けさせる。
○地域の人々の協力を生かした教育活動を積極的に行う。

総合的な学習の時間の指導の重点

○自ら課題を見つけ、自ら学び考え、判断し、解決する能力、態度を育成する。
○学び方やものの考え方を身に付け、探究活動等に主体的に取り組み、自己の生き方を考えることができる態度を養う。
○自然体験、ボランティア体験などを通して、自らを生かし、望ましい人間関係を育てる。
○情報や環境など、新しい社会的課題に気付き、積極的に関わろうとする意欲を育てる。

特別活動の指導の重点

○望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。
○集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導の重点

○郷土の特色(池上地区の特色)を活用した学習を通して、身近な地域への関心を高める。
○地域の人との交流を通して、人間尊重の精神や思いやりの心を育てる。

学校経営方針(学力向上に関わる重点)

授業力向上の目指し、学び合い、高め合う授業の実践により、子供たちの思考力・判断力・表現力を育成する。

- 主体的に学ぶ意欲の向上。
- 基礎的、基本的な知識・技能の定着。
- 課題解決に必要な思考力・判断力・表現力の育成。
- ・算数習熟度別指導の充実
- ・補習教室の実施
- ・校内研究の充実
- ・地域の教育力の導入

校内研究

夢を育む感動体験を味わうことのできる「未来づくり科」の創出
～カリキュラム・マネジメントと地域材の活用～

【目指す児童像】

地域をより知り、地域とつながり、生き生きと学ぶ子

人間関係や環境の整備、生活指導、生活全般における指導の重点

○「徳持スタンダード」の徹底により、学校のきまりを理解し、基本的な生活習慣が定着できるようにする。
○相手の立場を思いやる心を育て、望ましい人間関係を育てる。
○安全な環境を整備するとともに正しい言語環境、信頼し合う人間関係を育てる。
○学校カウンセラーと連携・協力し教育相談の充実を図る。

各教科の指導の重点

国語	各教科学習の基礎となる言語力の育成を図る。「話す・聞く姿勢」を徹底させ、話し合う力を育てる。また、読書活動を推進し、読む力を伸ばす。
社会	資料から必要な情報を集めて読み取り、社会的事象の意味等を解釈し、自分の考えをもつことで、他視点で公正に判断する能力や態度を養い、社会形成に参画する資質を育成する。
算数	数や図形の感覚を育てるために算数的活動を多く取り入れる。基礎的・基本的な内容の確かな定着を図るために、発達や学年の段階に応じたステップ学習による指導を充実させる。
理科	自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力をつける。自然の事物・現象についての実感を持った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。
生活	言語活動などを通して、人とのかかわる楽しさが分かり、進んで交流できるようにする。活動や体験したことを言葉や絵で表す表現活動を一層重視する。
音楽	リズム、旋律、ハーモニーを大切に学習を展開し、基本的な楽器の奏法や発声ができるようにする。
図工	絵の具、道具や工具等の基本的な扱い方を基礎力として身に付け、自分の思いを自由に表現できるようにする。
家庭	家庭生活の基礎となる生活技能を、体験活動を通して学ぶ。自らの課題達成のために進んで調べ、手順を考えたり、よりよく工夫したりできるようにする。
体育	体づくり運動などで基本的な動きや柔軟性を身に付ける。また、運動量を確保するとともに自らめあてをもち、励まし、学び合いながら学習できるようにする。
外国語	コミュニケーションの目的や場面を意識して活動を行う。英語の音声や語彙、表現などの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図る。

指導内容・指導方法	教育課程	研究・研修の工夫	評価の工夫	地域や家庭との連携
○学び合い、高め合う場面を設定することで、主体的に学ぶ意欲を高める。 ○教材研究の時間を確保し、指導を工夫して、よりわかる授業を行う。 ○算数タブドリプラスや習熟度別指導、東京ベーシックドリルの活用など、個に応じた指導の充実を図る。 ○体験学習・問題解決学習を取り入れ、自ら課題を解決する力を育成する。 ○読書指導や言語活動を充実させ、各教科の基礎となる言語力を育成する。	○振替なしの土曜授業を年間3日実施し、学力向上のための時数を確保する。 ○補習教室、基礎・基本の力を定着させる。 ○読書週間、保護者による読み聞かせなどにより、読書活動を推進する。 ○全学年で外国語活動を実施し、国際理解教育を推進するとともに、言語に対する関心を高める。	○校内研究を授業力向上の場とする。全学年・専科教員で分科会を組織して、研究授業を行い、主体的・対話的で深い学びを目指した授業づくりを行う。また、学び合い、高め合いを重視した授業を行うことができるようにする。 ○区の教育研究会の各部会で授業研究を深めたり、外部の研修に参加したりして、指導力を高める。	○学習のねらいを明確にし、1時間ごとの評価を生かして学力の定着に努める。 ○学校公開での保護者アンケート、外部評価などにより、授業改善を行う。 ○学習効果測定の個人票を基に、学習の定着状況を振り返らせ、目標に向けて学習計画を見直すことができるように支援する。	○「徳持スタンダード」を配布し、家庭と協力して基礎・基本の定着のために取り組む。 ○国際理解、健康、キャリア、環境教育、地域学習など、地域の協力による体験や交流により学びを広げる。 ○徳持応援団(学校支援地域本部)により、漢字検定など、地域の人材を活用し、地域の教育力を組織化し、教育活動をさらに充実させる。

小中一貫授業改善プラン 重点観点及び重点指導事項一覧（蓮沼中学校区）

国語科

令和 6 年度

	観点別		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	「読むこと」 ・ 説明的な文章を読み、理解したことや考えたことを報告する対話的な学び。 ・ 文学的な文章を読み、考えたことを伝え合う対話的な学び。		

社会科

	観点別		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	問題解決的な学習の充実		

算数・数学科

	観点別		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点	◎		
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点	◎		
重点指導事項	・ 前時の復習、小テストの活用など反復学習学習に重点を置き、基礎学力の定着を図る。 ・ 個の習熟度によって、途中式の書き方や助言の内容を工夫した指導を行う。		

理科

	観点別		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	・ ICT を用いた実験・観察の予想と考察を行う。 ・ 班による実験・観察の予想と考察を行う。		

音楽科

	観点別		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	・ 音楽的な見方・考え方を働かせ、思いや意図を伝えあう活動の工夫。 ・ 音楽を表現していく経験の積み重ね。		

図画工作・美術科

	観点別		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	作品や材料との対話、生徒のグループによる対話活動を通して、思考力や表現力を高める指導の工夫。		

保健体育科

	観点別		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点			◎
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点	◎		
重点指導事項	・ 運動を好きになる小学校の取り組みと、その土台の上に理解や技能を高める指導を行う。		

技術・家庭科

	観点別		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	・ 授業の中で学んだことを生活の中に活かし、工夫して作品を作る。		

外国語科（英語）

	観点別 （指導要録に記載されているもの）		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点			◎
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点			◎
重点指導事項	積極的かつ効果的な ICT の活用を工夫した授業の推進。		

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・校内平均正答率は全学年において基礎・活用ともに目標値を上回った
- ・「書くこと」の領域においては、目標値や区・全国の平均正答率よりも上回った。
- ・辞書や chromebook を用いての調べ活動、言葉と経験とを結び付けていく学習を取り入れることで基礎値は70%を保っている。

(2) 課題

- ・「話すこと・聞くこと」の領域では、どの学年においても正答率があまり高くない。根拠をもって自分の考えを話したり、大事なことを落とさずに相手の話を聞いたりできるようにする必要がある。
- ・第5、6学年は、二極化している。60%未満の児童には、補修や分かりやすい説明などが必要だと考える。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年変化）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	・校内平均正答率の「基礎」「活用」とともに目標値を上回っている。	・校内平均正答率の「基礎」「活用」とともに、目標値を上回っている。	・校内平均正答率が、基礎、活用ともに目標値を上回った。
第5学年	・校内平均正答率の「基礎」「活用」とともに目標値を上回っている。	・校内平均正答率の「基礎」「活用」とともに、目標値を上回っている。	・「基礎」の校内平均正答率は、目標値と区平均値を上回っている。
第6学年	・校内平均正答率の「基礎」「活用」とともに目標値を上回っている。	・校内平均正答率が、基礎、活用ともに目標値を上回った。	・基礎、活用共には目標値を上回っているが、区平均正答率は下回っている。

(2) 分析（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第4学年	・校内平均正答率が、目標値を上回った。 ・漢字や言葉の内容はおおむね定着している。しかし、主語と述語の関係についての理解が低い。	・校内平均正答率が、目標値を上回った。 ・「読むこと」の領域で、内容を十分に読み取ることができている。 ・情報と情報との関係について理解し、自分の考えを書く問題では、目標値より10ポイント低い。	・校内平均正答率と、目標値がほぼ同等。 ・自分の考えを明確にし、内容の中心をおさえ、文章を書くことができている。一方で、指定された文章構成で書く問題では、無回答が多い。
高学年	第5学年	・第4学年に配当されている漢字を正しく書く問題では、目標値よりも15ポイント低い。 ・連用修飾語、連体修飾語の問題では、目標値より3ポイント低い。	・話し合いの内容を聞き取る、物語の内容を読み取る面では、正答率が高い。 ・説明文の内容を読み取り、段落相互の関係を読み取ることは苦手の傾向にある。 ・自分の考えを明確に書くことや理由や事例との関係を明確にして文章を書くことにも苦手の傾向がある。	・校内平均正答率は、目標値を上回っているが、全国平均正答率と区平均正答率より下回っている。 ・指定された長さで文章を書くことに苦手意識が見られ、無回答もある。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	第6学年	・観点別正答率では、校内平均正答率が、目標値、全国平均正答率ともに上回っている。 ・漢字の読み・書きの項目ではいずれも目標値を上回っている。	・観点別正答率では、校内平均正答率が、目標値、全国平均正答率ともに上回っている。 ・「物語の内容を読み取る」の項目が目標値を8ポイント下回っている。	・観点別正答率では、校内平均正答率が、目標値、全国平均正答率ともに上回っている。 ・「文章を書く」の項目が目標値を0.3ポイント下回っている。 ・無回答率が学年の20%ほどある。

3 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第1学年	・言葉にする力を伸ばす。そのために朝学習や授業の中で読書の時間を十分にとる。言葉の意味を動作化したり具体物を提示したりして説明する。 ・物語や説明文などの内容を正しく読み取る。そのために、繰り返し様々な読み方で音読をさせる。 ・タブレットを活用したり、言葉集めやしりとりを行ったりすることを通して、語彙を増やし、学習の基本となるひらがな・がたかな・漢字の正しい書き順を身に付けさせる。	・自分の考えを言葉で表現できるようにする。そのために、必要に応じ話型を提示して自分の考えをまとめやすくする。 ・自分の考えをもって対話をするすることで、互いに感想を伝え合い、考えを共感できるようにする。 ・対話をもとに話し合い活動の機会を設ける。	・読書が楽しいと感じられるように、図書の時間に読書学習司書による読み聞かせを行う。また学習単元に関係する内容の本を集め、並行読書を行い、読書の楽しさを実感できるようにする。 ・学習したことを他教科や生活に活かせるように各単元で他教科と横断的な指導ができるように指導計画を立てる。
	第2学年	・語彙を増やし、活用することができるようするために、読書の習慣を付けたり、教科書「ことばのたからばこ」を活用する。 ・正しい漢字の書き方を定着させるために、小テストや漢字ドリルを計画的に活用し、繰り返し取り組む。 ・文章表現をする上での基本を丁寧に指導する。 ・音読の習慣をつけ、様々な詩や文章表現に触れつ機会を作る。	・「順序を表す言葉」を使って、自分の体験したことや気持ちを分かりやすく表現する習慣を付ける。 ・友達の考えを聞き、自分の考えや質問、感想を伝えられるように話型を提示したり、良い手本を示したりする。 ・読む人に自分の思いや考えが明確に伝わるように、順序を考えて書いたり、簡単な構成を考えたりできるようにする。	・読書に関心がもてるように、図書の時間に読み聞かせをしたり、学級での読書時間を作ったりし、感想を伝え合う時間を設ける。 ・自分の気持ちや思いを表現する活動を多く設定し、日常活動として取り入れる。 ・学習したことを他教科に生かせるように各単元で横断的な指導ができるように指導計画を立てる。
中学年	第3学年	・新出漢字で熟語や文例を考えるなどして興味や意欲を引き出す。漢字を正確に書けるよう定期的に小テストを行う。 ・主語述語、指示語、修飾語、漢字の音訓について繰り返し、指導を行う。 ・国語辞典をひく、ことわざ・故事成語を調べる活動を通して、言葉への興味を高め、語彙を広げる。	・物語の場面構成や重要な語句を明確に提示し、そこから読解できる内容を具体的に示して、想像して書く・説明する方法を理解できるようにする。 ・はじめ・中・終わりの文章構成、説明の仕方の具体例を示して、書き方を共有することで相手に伝わりやすい文章が書けるようにする。	・学習課題や学習計画を児童と共に立てる。 ・図書の時間や読書週間を活用し、学年にふさわしい本や幅広い分野の本に親しむことができるようにする。 ・質問の仕方、話し合い方の話型を示し、必要感のある話し合いの機会を設定する。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学 年	第 4 学 年	- 自分の考えの基になった叙述や表現に印をつけたりメモしたりすることで、自分の考えを支える理由を話したり書いたりできるようにしていく。 - 主語、述語などの文のつくりを気付けて文を書いたり、話したりできるようにする。 - 毎日の漢字学習、漢字小テストを実施し、繰り返し書くことで定着を図る。	- 情報と情報を関連付けて、自分の考えを書くことができるようにする。段落相互の関係に注意して文章を書くことができるよう指導する。 「はじめ・中・終わり」の文章構成を意識して書くことができるようにする。	- 話を聞く時に話す人の方を向くことを徹底し、聞く姿勢を身に付けさせる。 - 文を書くことへの意識を高めるために、日頃から文章を書く習慣を付ける。
高 学 年	第 5 学 年	- 新出漢字を学ぶときに、書き順や熟語などを確認する。 - 漢字ノートに練習するときは、その漢字の熟語を使って作文させる。 - 文章の読み方を丁寧に指導し、誤読なく文章を読めるようにする。	- 自分の考えや筆者の考えをまとめるときに、文字数や文章の長さを指定して書かせるようにする。 - 文章を書くときは、語尾や接続詞などに気を付けさせる。	- 文章を書かせる機会を増やす。 - 単元の最後には、できるようになったことやもっと知りたいことなど、意欲的に学習に取り組めるように振り返りをさせる。
	第 6 学 年	漢字の「読み」「書き」の練習、漢字小テストでの反復練習を引き続き行う。また、国語科での書く活動、他教科での学習においても漢字の「読み」「書き」を意識して指導を行い、児童がより実践的に漢字を活用できるようにする。	- 物語を読む際には、叙述を基に登場人物の気持ちや考えを読み取ることができるように、下線を引いて文章を読むようにさせる。 - 考えを交流する時間に重点を置き、自分の言葉で説明する経験を積ませる。	- 文章を書くことに対する苦手意識を取り除くため、文章を書く際の構文を示し、型に当てはめて書く練習を行う。 - 国語以外の教科においても、学習のまとめの時間を有効に活用し、書くことの経験を増やす。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・4年生では、社会的事象の意味を考え、友達と意見交流したり、単元のまとめを自分で作成したりしたことで、自分の考えをまとめる力がついた。
- ・5年生では、調べて考えた事を白地図にまとめたり文章表現したりすることで知識が定着した。資料から何が読み取れるのかまず個人で考え、さらに学級で話し合う機会を設けたことで、資料活用の力が身に付いた。
- ・6年生においては、写真、図、グラフなどの資料から学習課題に沿った内容を読み取る活動を繰り返し行った。友達との考えの交流を行ったことで自分の考えをもつ事ができた。

(2) 課題

- ・引き続き各種の資料を的確に読み取る活動を重ね、知識の定着を図ると共に、児童が事実を比較・関連させて自分の考えをもてるよう、問題解決的な学習を充実させる。
- ・自分の学び方を振り返る機会をつくり、学習の仕方に見通しや自信をもてるように助言や支援を行う。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年変化）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	・校内正答率は、基礎、活用ともに目標値を下回った。	・校内正答率は、目標値を若干下回った。基礎は目標値を下回ったが、活用では上回った。	
第5学年	・校内正答率は、基礎問題17問中12問が目標値を下回った。	・校内平均正答率は、基礎、活用どちらにおいても、目標値を上回った。	・校内正答率は、目標値を下回った。領域別正答率では、12項目中8項目で目標値を下回った。
第6学年	・校内平均正答率は、「基礎」「活用」とともに目標値を若干下回っている。	・校内平均正答率は、教科全体、基礎、活用共に目標値を若干下回っている。	・校内正答率は全ての領域において、目標値と区正答率を上回った。

(2) 分析（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第4学年	・人々のくらしの様子の变化について、理解している。 ・地図記号やグラフから情報を正確に読み取る力が無い。	・生産（工場）の仕事に見られる工夫について考え、表現する力が身に付いている。 ・資料や年表を読み取り、判断する力に課題がある。	・資料に着目しながら、社会的事象と自らの生活について関連付けて選択・判断することが苦手である。
高学年	第5学年	・表やグラフなどの資料から、学習課題に即した内容を読み取ったり、関連させたりすることが難しい。 ・八方位の理解ができておらず、地図の読み取りが十分にできない。	・グラフなどの資料から、自らの考えをもったり、表現したりすることが苦手である。 ・社会的事象の共通点や差異点を整理し、自分の考えについて根拠を明確に表現することが苦手である。	・社会的事象から、実体験や今後起こりうる事象の可能性を考え、親近感や切実感、必要観をもって調べ学習を行う経験が不十分である。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高 学 年	第 6 学 年	・目標値を3ポイント下回っている。 ・「自然環境と国民生活」の項目では目標値を上回っている。 ・「自動車をつくる工業」の項目において目標値を下回っている。	・目標値を3ポイント上回っている。 ・資料から情報を読み取ることや、その情報を整理し、自分の考えを表現することが苦手である。	・目標値、全国平均ともに若干下回っている。 ・知識を習得するにとどまり、そこから予想を立てたり、新たな課題意識をもつことが苦手である。

3 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中 学 年	第 3 学 年	・資料や地図帳から情報を読み取る活動を繰り返し行い、地図の見方に慣れ、正確に読み取れるようにする。 ・白地図への書き込み作業や年表づくりに取り組み、知識の定着を図る。	・自分の意見を書いてから、ICTを活用して友達と意見を交流することで、自分の考えを練り上げ、深める。 ・問題解決的な学習過程を各単元で繰り返し行い、社会的事象の意味を捉えて表現する力を育てる。	・学習問題に対して予想をもち、学習計画を立てる時間を確保する。 ・調べ方やまとめ方の例や方法を示し、工夫して取り組むよう促す。 ・学んだ内容や学び方を振り返る機会をつくり、学習を自己評価できるようにする。
	第 4 学 年	・ICT機器を活用して調べたり、資料や地図などから情報を正確に読み取ったりすることを通して、知識を定着させていくようにする。 ・地域の様子を白地図にまとめたりノートにまとめたりさせ、知識の定着を図る。	・社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えるさせ、その解決に向けて関わり方を選択・判断する力、表現する力を養う。 ・ICT機器を活用したり、プリントやノートにまとめたりすることを通して、自らの考えをまとめる活動を取り入れる。	・学習問題を解決する学習計画を立て、毎時間の学習課題に沿って調べ、自分の考えを表現することができたか、自己評価する機会をつくる。 ・学習したことを社会生活に活かす方法を考える活動を取り入れる。
高 学 年	第 5 学 年	・学習問題を意識して、社会的な見方・考え方を働かせ、グラフや表などの資料から必要な内容を読み取る活動を積み重ねていく。 ・地図帳を活用し、地名や都市名など、既習内容を復習する学習活動を取り入れ、47都道府県など基本的な知識の定着を図る。	・1時間の学習課題を明確に示し、資料から読み取った事実に基づいた、明確な根拠のある自らの考えを表現することを積み重ねる。 ・一人一人が自分の考えをもち、友達との交流や話し合いによって、自らの考えを広げたり、深めたりすることができる学習展開を計画する。	・社会的事象と自らの生活と関連付け、その目的や意義を考えたり、よりよいあり方について選択・判断したりする活動を取り入れる。 ・学習問題について予想をもち、学習計画に基づいて見通しをもって調べる学習活動について、自己評価していくことで、主体的な態度を育てる。
	第 6 学 年	・知識の定着を図るため、既習事項との関連付けを意識した授業を展開する。 ・ICT機器や資料集を活用し、視覚的に理解できる機会を増やし、学習内容の定着を図る。	・資料から読み取ったことを整理し、それに対する自分の考えを示すことができるような授業を展開する。 ・毎時間のポイントとなる事柄については共通理解を図り、それに対する自分の考えを学習のまとめの際に記述させる。	・授業の導入では自分事として捉えられるような視点を与え、学習問題について予想し主体的に学習計画を立てる活動を取り入れる。 ・資料から読み取ったことをもとに友達と交流し、多面的・多角的な考え方に触れることができるような授業を展開する。 ・自分の学習の仕方を振り返る機会をつくる。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICTの普及により、授業の工夫や変化が見られ、児童の表現の仕方の幅が広がった。
- ・タブレットドリルの活用により、児童自身の学習への理解度が俯瞰して見られるようになった。

(2) 課題

- ・表現の仕方が広がったことにより、知識や技能を活用して考えたことを、友達にわかるように表現する力を身に付けさせる工夫をする必要がある。
- ・学習効果測定の結果から、知識の応用は基礎項目に比べてできている傾向が見られたため、日頃の授業を通して四則計算などの基礎基本の定着を図り、より生かしていく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年変化）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	・校内正答率は、基礎・活用ともに、目標値を上回った。	・校内正答率は、基礎・活用ともに目標値を上回ったが、前年度に比べて少し下がった。	・校内正答率は、基礎・活用ともに目標値を上回った。
第5学年	・校内正答率は、基礎・活用ともに、目標値を上回った。	・基礎については、目標値を下回った。しかし、活用は目標値を上回った。	・校内正答率が、基礎、活用共に目標値を上回っていた。
第6学年	・校内正答率は、「基礎」「活用」ともに目標値を上回った。	・活用については、目標値を上回った。基礎は目標値を下回った。	・活用については、校内正答率は、目標値と区正答率を上回った。

(2) 分析（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学 年	第4 学年	・かけ算や表と棒グラフについての理解力が高い。 ・円の半径について答える問題の誤答が見られた。	・わり算の、余りを切り上げて処理する問題ができ、その理由を説明することができている。 ・わり算の、余りを処理して正しい答えを求める文章題に誤答が見られた。	・校内平均正答率が、目標値を上回った。 ・グラフから読み取ったことを表現する力がある。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高学年	第5学年	- 与えられた分数を数直線上に表したり、簡単な分数のたし算・ひき算について理解をしたりしている。 - 分度器の目盛りの読み方を理解している。 - 概数の表し方、やあまりのあるわり算が弱い。 - 様々な形の性質や作図をすることが難しい。 - 折れ線グラフと表を読み取ることに難しさを感じている。	360° より小さい角の大きさを求めることができる。 - 身近なものの面積の見当をつけることができる。また、複合図形の面積の求め方を理解している。 - 折れ線グラフでは、1目盛りがいくつを表しているのかに注目して読み取る力が弱い。 - 変わり方調べでは、伴ってかわる2つの数量の関係を式に表したり、そこから値を求める力が弱い。	- 校内平均正答率が、目標値・区平均を上回った。 - 図形の面積の求め方について全体的に理解しているが、図形の性質の理解が乏しいため、作図に苦戦している。 - 上からある桁の概数の求め方の理解が難しいと感じている児童が多くいる。 - 表に表したり、グラフを正しく読み取んだりすることに難しさを感じている児童が多くいる。様々なグラフや表を書いたり読んだりする経験をたくさん積む必要がある。
	第6学年	- 目標値を3ポイント上回っている。 - 奇数、偶数、公倍数、公約数など、整数の仲間分けについては目標値を上回っている。 - 小数の計算が苦手である。 - 比例、単位量あたりの計算が苦手である。	- 目標値とは同等、全国平均より3ポイント上回っている。 - 文章題を読み取り、正しい式を選択したり、立式したりすることが苦手である。 - 資料を読み取ったり、読み取ったことを説明したりすることが苦手である。	- 目標値より1ポイント、全国平均より6ポイント上回っている。 - 習得した知識をもとに自信をもって学習に取り組むことができている児童が多い。 - 自分の考えを自信をもって説明できる児童は少ない。

3 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第1学年	- たし算やひき算の計算力を定着させるために、練習時間を十分に確保し、プリントや計算カード・タブレットドリルを使って反復練習に取り組む。 - 計算の意味がよく理解できるようにブロックを使い、具体的な操作活動を取り入れる。	- 授業の中で自分の考えを相手に説明する機会をもつ。 - 考えの根拠を明確にして、分かりやすく伝えられるように、図・具体物の操作を用いて説明する。	- 学習意欲をもたせるために、身近な日常生活の場面や、具体物などを問題の題材として取り上げる。 - 学習を振り返る時間をもつことで、学習内容を確認理解を定着できるようにする。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第2学年	・計算カードやプリント、ドリル、タブレットのアプリなどを活用して、繰り返し練習して定着を図る。 ・時刻や時間、長さやかさなどの様々な単位を使用する学習については、日常的に取り上げて慣れ親しむようにする。	・自分の考えを、根拠を明確にし、図・絵、言葉 ICT を利用して説明する機会を増やし、考えを深める。 ・文章題では演算決定のキーワードに着目させ、そこから立式できるように声掛けをする。	・具体物を活用したり、ICT による操作活動を行ったりして興味関心がもてるようにする。 ・日常生活の中で、大きな数や、長さや水のかさなど単位に着目して、積極的に活用する機会を増やす。 ・学習の振り返りの中で、本時で分かったことやまとめを自分でまとめることができるようにする。
中学年	第3学年	・四則計算を継続して反復練習をし、正確に早く解けるよう定着を図る。 ・計算の意味や仕方を言葉や数、式、図を用いて説明するような授業構成にする。	・問題の場面を想起させて聞かれている内容をしっかり把握し、必要な情報を取り出して立式し、計算できるようにする。	・児童が授業を振り返り、まとめる時間を作る。 ・既習事項をタブレットを用いて復習させ、自ら学び、より理解に繋がるようにする。
	第4学年	・整数や小数・分数の意味と表し方について理解し、数直線上の分数の関係を理解できるようにする。 ・コンパスの使い方を理解し、円の構成や面積の測定を正しくできるようにする。	・わり算の文章問題に取り組み、余りの処理をして正しい答えを求める力を育む。 ・意見交流の場をつくり、他者との考えの相違を理解し、自分の考えの幅を広げる活動を増やす。	・学習の振り返りの時間に、学習課題を多面的に捉え検討させ、より良いものを求めようとする態度を養う。 ・学習内容を自らの生活に生かそうとしたり、次の学習に活用しようとしたりする態度を養う。
高学年	第5学年	・タブレットドリルを始め、タブレットを有効に活用し、既習事項の確かめをさせる。 ・億や兆概数の表し方や作図などの基礎・基本的な問題に授業の始めなどに継続的に取り組む。 ・少人数学習熟度別学習の利点を生かし、補習が必要な児童に対して単元末テストの直前等に補習を行う。	・既習事項に立ち戻り、そこから自分の考えをもたせられるような授業展開を考える。 ・授業の中で、自分の考えを交流する時間を十分に設ける。 ・友達の考えを聞いて、自らの考えに立ち返る時間も確保する。 ・発展的な学習でオープンエンドの問題に取り組み、自分の考えに根拠をもって説明できるようにする。	・導入を工夫し、ゲーム性のある問題や情報が足りないもしくは多い問題などを扱い、児童の興味関心を引くようにする。 ・学習したことを身の回りや、他教科の授業で生かすことができるのか考える時間を設ける ・振り返りを適宜行い、自らの学習状況を把握し、次の時間に生かすことができるようにする。 ・振り返りの観点をしっかりと定着させることで、自らの学習状況にあった学習に取り組む手立てとする。 ・間違えた問題を繰り返し解いたり問題を様々な方法で解いたりして、粘り強く学習に取り組ませる。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高 学 年	第 6 学 年	• 小数の計算、単位量あたりの計算を中心に、タブレットドリルを活用し、知識の定着を図る。 • 用語や公式を確実に用いることができるように掲示したり、繰り返し確認したりする。 • 毎時間の導入で、既習事項の確認を行い、継続的に振り返りが行えるような授業を展開する。	• 文章題への理解を深めるため、色分けをして「全体」「割合」「もとにする量」「比べる量」などを把握できるようにする。 • 「わられる数」「わる数」「商」などの単位に着目し、何を求めるための問題なのかを理解できるように授業を展開する。	• 自分の考えを図や言葉、式で表し、友達に説明することで、自分の考えに自信を付けられるような学習活動を設定する。 • 授業の導入では、児童の実生活に関わるような問題を用意し、実生活と結び付けて学習に取り組むことができるような授業を展開する。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・一部児童は、実験観察を通して、科学的事象の一般化だけでなく、次に疑問につながる考察ができるようになってきている。
- ・実験、観察に意欲的に参加する児童が多い。理科室利用の約束事や実験中の安全管理も身に付いている。

(2) 課題

- ・基礎的な学力が身に付いていない。学習過程をユニバーサルデザイン化し、各学年で働かせるべき理科学的な考え方と基礎的な知識の定着を図る。
- ・引き続き、科学的事象の因果関係や理科学的な用語等の理解・定着を図ること。
- ・実験・観察で結果として認識したことと学習としてのつながり、学習内容と生活場面でのつながりが希薄であること。単元の導入や実験・観察やまとめの場面で、日常生活とのつながりを意識した授業づくりをする。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年変化）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	・校内平均正答率が、「基礎」「活用」とともに目標値と区平均正答率より下回った。	・活用については、校内正答率は、目標値と区正答率を上回った。	
第5学年	・校内平均正答率が、「基礎」「活用」とともに目標値と区平均正答率より下回った。	・校内平均正答率が、基礎、活用とともに目標値と区平均正答率を下回った。	
第6学年	・校内平均正答率が、「基礎」「活用」とともに目標値と全国平均正答率を下回った。	・校内平均正答率が、基礎、活用とともに目標値と区平均正答率を下回った。	・校内平均正答率が、基礎、活用とともに目標値と区正答率を上回った。

(2) 分析（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第4学年	・生命・地球に関する問題の理解が低い。 ・植物の育ち方、こん虫のからだつくりの理解が低い。	・「光の性質」についての理解が低く、実験の方法からどのような問題を見出したかを推測することが難しい。	・実験方法から性質を説明したり、実験の結果を推測したりする問題では、無回答が多い。
高学年	第5学年	・「天気のようにと気温」では、気温をはかる条件や百葉箱のつくりについて理解が低い。 ・「季節ごとの動物の様子」「雨のゆくえとと地面の様子」「水のすがた」についての理解が低い。	・金属の性質をもとに理由を推測する問題が苦手。 ・雨水のゆくえとと地面のようすについて、関係をもとに判断して説明する問題の正答率が低い。 ・グラフから読み取ったり、図から間違いを探したりする問題が弱い。	・理由を説明したり、推測したりする問題の誤答や無回答が目立つ。 ・植物や動物などの問題は正答率が高い。
	第6学年	・「人のたんじょう」で目標値、全国正答率を下回った。	・「流れる水のはたらき」「電流のはたらき」で目標値、全国正答率を下回った。	・実生活との結びつきが弱く、自分の考えを表現したり、理由を説明したりすることに苦手意識がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学 年	第3 学 年	学習した理科の用語を授業中に活用する機会を設け、学習内容を定着させる。	予想を立て、その根拠を自分の生活経験や既習事項から用いて、考えさせる。	- 実際に身の回りで起きている自然現象を教材として扱う。 - 実験・観察で本物を見せる機会をできるだけ多く設ける。
	第4 学 年	- 知識の定着を図るために、教科書に出てくる用語を使って、まとめる。 - 教え込みではなく、どのような実験をすれば解決できそうかを考えさせる。	- 実験結果を基に分かりやすく考察をまとめさせ、思考する力を高められるようにする。 - 既習事項や生活経験を基に学習問題を自ら見出す活動を取り入れる。	- 導入時に科学的事象が実感できる体験的な活動を行うなど関心や意欲を高め、児童の問題意識を主とした学習活動を行う。 - 既習事項や生活経験から予想を立て、根拠のある予想ができるようにする。
高学 年	第5 学 年	実験や観察で、正しく記録する方法を指導し、児童自身に考えさせることで定着させる。	- 既習事項を生かして予想したり、絵や図を使ったりして根拠を明確にして考察やまとめを書かせる。 - 気になったことについて探求できる時間を設ける。	- 生活と結びつくような体験的な学習活動をできるだけ取り入れる。 - 分かったことや気になることなど、友達と話し合う機会を設ける。
	第6 学 年	- 具体物や ICT 機器を用いて、視覚的に理解できる授業を展開する。 - 用語を正しく理解し、覚え、使えるように、関連する学習で既習の内容について確認する。	- 実生活での経験を基に予想を立て、条件制御の考え方を使得、解決の方法を考えさせる。 - 得られた結果を考察する視点を与え、適切に考えられるようにする。	- 導入時に日常生活と結び付け、科学的事象に興味をもたせるようにする。 - 得られた結果を考察する際、友だちと考えを交流し理解を深める場面を増やす。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

チャンツやゲーム、フラッシュカードなどを活用した活動を取り入れることで、外国語に親しもうとする児童が増えた。授業のはじめや終わりに英語の歌を流すことで、楽しみながら歌う様子が見られた。

(2) 課題

外国語に苦手意識があり、学習に意欲的に取り組んでいる児童と教師に言われたとおりにただ取り組んでいる児童の二極化している。また、アルファベットの大文字と小文字について正しく書けない児童が一定数いる。

2 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学 年	第3 学年	- 習得させたい単語の絵カードや会話例を黒板に貼って、見返しながら反復練習できるようにする。 - 発音、発話量を多くできるように、場面設定をする。	習得した表現方法を用いて、相手意識をもって発表する場を設定する。	主体的に学習に取り組めるよう、学ぶ必然性をもてる学習過程を設定する。
	第4 学年	- 英語特有のリズムやイントネーションを体得できるように、英語で歌ったりチャンツをしたりする。 - 発話・発音する量を多くすることで、定着を図る。	基本的な表現の意味の手がかりになるように、顔の表情や身振りを大きくしたり、イラストや写真を用いたりする。	主体的に外国語でコミュニケーションが図れるように、具体的な場面を設定し、友達やALTと尋ねたり答えたりする活動を多く取り入れる。
高学 年	第5 学年	- ICTの活用やチャンツを用いて、見たり聞いたり発話したりする活動を繰り返す。 - 習った表現を用いて発話・発音する場を多く設定し、定着を図る。 - 学習した内容が板書に残るようにし、活動の中でいつでも振り返られるようにする。	- 相手に伝えなくてはならない（伝えたいと思う）場面を設定し、習った表現を友達やALTとの交流で繰り返し用いることで内容や状況を推測する力を高める。 - 簡単な表現を使って自分の気持ちや考えを英語にして書く場面を設定する。	- 各単元において、児童が学ぶことの必然性をもてるような学習計画を立てる。 - 日常で使われていたり、使えたりする表現をALTと共に積極的に使っている、児童が慣れ親しめる場面を増やしていく。
	第6 学年	- ICT機器を活用し、歌やチャンツに触れることで、楽しみながら知識が習得できるような授業を展開する。 - 英語を実際に活用する機会を設定し、発話、発音を繰り返し行うことで知識、技能の定着を図る。	- 授業の中で英語を実際に活用する場面を設定し、必要感をもって児童が英語を活用できるような授業を展開する。 - 習得した知識・技能を発信する機会を設けることで、自分が考え、アウトプットできる学習を展開する。	- 主体的に学習に取り組むことができるようにするため、適宜ゲームや歌を取り入れ、みんなが参加できるような授業展開を行う。 - 外国語を扱うことの必然性がある授業を展開する。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・限られた校内環境の中ではあるが、アサガオやミニトマトを育て、植物を大切にする心情が育ち観察することができた。
- ・学校探検は2年生が1年生を連れていった。1年生は学校内の場所や人への興味関心を高め、校内の身近な施設について学ぶことができた。2年生は、上級生としての役割が増えたことに気づき、自分たちにできることは何かを考えて実践することができた。
- ・まち探検は、コロナ禍の時と比べて保護者の協力も得て児童の自発的な調べ学習を進めることができた。

(2) 課題

- ・コロナ禍の影響で学校地域との交流学习に限りがあり、コロナ前のような調べ学習が十分にできなかった。引き続き自分の学校地域への愛着を育てていくことが必要である。
- ・自分の成長を振り返り、見守られ愛情をもって育てられたことに気付くこと、感謝する気持ちをもつこと、今後の目標や希望を持ったりすることが十分とはいえない。

2 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第1学年	・多くの気づきをもたせるために、体験活動やタブレット端末や図書を活用した調べ学習の機会を取り入れる。 ・生きものを育てる活動を通して、植物や虫などの身近な生きものが変化し成長していることや、生命をもっていることやその大切さに気付かせるようにする。	・ペア学習や全体での発表の場を多く取り入れることで、友達の考えや気づきを知り、自分の考えを深める。 ・見つけたもの・こと・人・植物の成長などについて、分かりやすく伝えるために、言葉や絵、文章などで表す機会をもつ。	・よい気づきをしている児童を取り上げて価値づけ、学んだことを他教科や生活に生かす。 ・よい気づきをしている児童を積極的に紹介して価値づける。 ・観察などの視点を具体的な言葉ではっきりと示し、気づきの質を高める。
	第2学年	・一人一鉢の自分で選んだ野菜の栽培活動を通して、成長の様子を自発的に気付けるようにする。 ・学校のまわりの池上警察署や池上図書館等の公共・まちの施設見学を行い、人との関りを大切にする姿勢を育てる。 ・タブレット端末や図書を活用した調べ学習の機会を多く取り入れ、自分で課題を解決する力を育てる。	・異学年との交流を多く設け、活動の楽しさを味わうとともに、自分の気づきを具体的に表現する活動を通して、相手に分かりやすく伝えられるように表現力を高める。 ・小グループでの話し合いや発表会など、友達と交流することを通して、相手の考えの良いところを見つけたり、自分の考えを深められたりするようにする。	・活動の過程をきめ細かく見取り、つぶやきや発言、思いを持つことを称賛して価値づけ、活動カードに振り返りなどを記録し、自分自身の成長を実感し、意欲的に取り組む態度を養う。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・音楽を聴き、感じたことや気付いたことを自分の言葉で表現することができるようになってきた。
- ・リコーダーの演奏に関しては、学年にとらわれずスモールステップで進めることにより、自信をもって演奏できる児童が増えつつある。

(2) 課題

- ・創意工夫を自ら考え、演奏に生かすことが難しい児童がいる。
- ・リコーダーの学習に関しては、あまり行っていなかったため演奏技能が不十分で、積極的に参加できない児童もいる。

2 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第1学年	・リズム感覚を身に付ける。そのために、リズム譜を見ながらリズム打ちができるようにする。様々な楽器の音色の特徴を捉えて演奏できるように活動時間を十分に確保する。 ・身体を使って表現しながら、階名の模唱や暗唱に取り組む。音の高さや速さを感じ取りながら歌ったり演奏したりできるようにする。	・曲想を考えて、曲想に合わせて歌い方やリズムを工夫して歌ったり演奏したりする。そのために拍のまとまりや拍子の違いを手拍子や様々な楽器の演奏を通して感じ取らせたり、歌詞やメロディーから曲のようすを想像したりして音学的感性を磨く。 ・音楽に合わせて体を動かしながら、歌ったり友達の歌唱や演奏を聴いたりする。	・音楽をしたい表現したり、楽器に親しんで演奏したりする活動を多く設定し、練習の時間を十分に取る。 ・曲が表現している様子を想像したり、体を動かしながら鑑賞したりすることで興味をもって、進んで学習に取り組むようにする。
	第2学年	・体でリズムを感じ取り、拍の流れに乗って身体を使って表現をしたり、簡単なリズムフレーズを作ったりすることができるようにする。 ・音の高低を感じ取りながら、歌ったり演奏したりできるように、身体を使って表現をしたり、階名の書かれた表を指さしたりしながら階名の模唱や暗唱に取り組めるようにする。	・音楽を聴いたり簡単な身体表現を取り入れるなどして表現したりして、拍の流れを感じ取り、音楽的感性を磨く。 ・拍のまとまりや拍子の違いを感じ取るために、音楽に合わせて体を動かしながら歌ったり、友達の演奏を聴いたりする。	・鑑賞や演奏の機会を増やし、表現を豊かにし、想像力を広げる。 ・楽器に親しんで演奏する機会を多く設け、練習の時間を十分に確保して、興味を持って進んで学習に取り組む姿勢を育てる。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学 学 年	- 基礎的な奏法に時間をかけて指導し、視覚支援や ICT 等を活用した指導をスモールステップで設定し、基本の定着を図る。 - 旋律の特徴を理解し、どのようにしたら特徴を生かした音色になるのかを考え、取り組ませる。	- 授業内の発表の中で友達の工夫点や多様な表現方法、またそのよさに気付かせる。 - 音楽の特徴と気持ちを表すことばを関連付けて音楽を聴けるようにする。	- 学習の流れを明確にし、見通しをもって学習できるようにする。 - 楽器に親しんで演奏する活動を多く設定し、練習の時間を十分に取る。 - 校内で発表する機会を設け、目標を設定させることで活動意欲の向上を図る。
高 学 年	- 基礎的な奏法に時間をかけて指導し、視覚支援や ICT 等を活用した指導をスモールステップで設定し、基本の定着を図る。 - 音の重なりを中心に、その特徴と音楽の要素を結びつけられるようにする。	- 授業内の発表の中で友達の工夫や表現のよさに気付かせる。 - 知覚したことと感受したこととの関わりを考えさせる。 - 音楽の特徴や気持ちを表すことばの中から自分で要素を選択した上で、演奏の工夫を考えさせるようにする。	- 学習の流れを明確にし、見通しをもって学習できるようにする。 - 楽器に親しんで演奏する活動を多く設定し、練習の時間を十分に取る。 - 校内で発表する機会を設け、目標を設定させることで活動意欲の向上を図る。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 様々な材料や用具を経験する機会を増やしたことで、それまでの学習を生かして新しい表現を生み出そうという姿勢が見られた。
- ICT を活用して、自分の作品について記録を残したり、まとめたりすることで、お互いの頑張りを振り返ることができ、表現活動に進んで取り組むきっかけにつながった。

(2) 課題

- 題材によって、児童の意欲に差が出てしまう。苦手な題材に対しても主体的に臨むことができるような支援、場づくりを増やしたい。
- 高学年に上がるにつれ、自分の表現や作品に自信を持つことが難しく、表現への意欲の低下、発想を広げることが苦手と感じている場面が見られる。

2 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第1学年	• 自分の思いや考えをのびのびと表現するために、手や身体全体の感覚を用いて身近な材料や道具の特徴をよく知り、使い方に慣れるようにする。 • 児童が手や体全体の感覚を使って対象や事象を捉えられるような題材を設定する。	• 身近な生活経験を想起できるような題材を設定したり、友達の作品の鑑賞をしたりすることで、自分の見方や感じ方を広げられるようにする。	• よりよい作品に仕上げようとする態度を育てるために、ICT 等を活用して作品のよさや工夫を共有する。 • 教師が声をかけて助言や価値付けをしたり、児童同士が互いによさを認め合ったりできるようにする。
	第2学年	• 身近で扱いやすい材料や用具に十分になれさせ、表現したいことに生かせるように場面を設定する。 • 友達の作品や表現活動を見るときに、ICT 等を活用して作品のよさや工夫を共有する。 互いの良さや工夫を見つけられるように視点をいくつか提示する。	• 身の回りの作品などから感じたことを話したり、聞いたりするなどして、形や色、表し方のおもしろさに気付かせ、自分の感覚でものを見たり感じたりできるようにする。	• 身の回りの作品などを見たり、作品について話し合ったりすることで、自分の見方や感じ方を広げられるようにする。 • 今までの経験を活かし、活動に応じて材料や用具の使い方を考えさせ、活動全体を工夫できるようにする。
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年		• 様々な材料や用具を経験することのできる題材、場の設定をする。また、材料や用具の正しい使い方について安全に用具が使えるようしっかりと指導し、児童が表現したいことに合わせて工夫して活用できるようにしていく。	• 導入時の資料掲示や対話、机間指導における発想のよさを認める声かけを通して、児童が発想を自由に広げやすい場づくりに取り組む。 • ICT の活用や機の配置などを工夫し、互いの作品を鑑賞しあえる機会を増やし、児童が自分の見方や感じ方を広げることができるように促す。	• 教師と児童、児童同士の対話、写真などの資料によって授業の導入を行い、進んで活動に取り組もうとする態度を育む。 • 机間指導において、児童の発想や表現のよさを認める声かけをする。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高 学 年	様々な材料を試すことができる場の設定をする。また、これまで学んだ、材料や用具の正しい使い方について復習すると共に新しい題材についても児童が表したいことに合わせて工夫して活用できるように確実な指導を行う。	- 導入時の資料掲示や対話、机間指導における発想のよさを認める声かけを通して、児童が発想を自由に広げやすい場づくりに取り組む。 - ICT の活用や机の配置などを工夫し、互いの作品などを自然に鑑賞しあえる機会を増やし、児童が自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。	- 教師と児童、児童同士の対話、写真などの資料によって、または必要に応じて ICT を使い授業の導入を行う、主体的に活動に取り組もうとする態度を育む。 - 机間指導において、児童の発想や表現のよさを認める声かけをする。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 調理実習（規定の調理とおやつ作り）や被服実習、お世話になった方への作品製作などの実習を多く取り入れることで、児童の意欲・関心を高めることができた。
- 被服実習では、児童は自由に教卓でも個別指導を受けられるようにすることで、器用さによる進度や意欲の差を解消し、安心して課題に取り組み、達成感を得て、苦手意識をなくすことができた。
- 授業でのICT（スクールタクトの課題）による作業や考察、発表を繰り返し行い、ICTの資料作成のスキルアップとともに、児童の様々な考えを共有することができた。
- 細かな手作業や詳しい情報はインターネットの動画を活用し、理解を促すことができた。
- ICT（スクールタクトの課題）を使用した家庭学習作業の課題提出を行うことができた。

(2) 課題

- ICT活用によるタブレットを使用した授業では、授業に関連のない使用を行う場合がみられ、授業の妨げとなっている。
- 裁縫実習では、教卓での個別指導を受けたがらない児童が少人数みられた。

2 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高学年	- 実習では、調理や裁縫の基本的な技術を授業はじめに短時間で行い、児童が安全に、安心して実習に取り組める導入にする。 - 被服実習では、授業当初に短時間で行える課題を準備し、短時間集中型の実習から取り組み、技術力アップを試みる。 - 苦手意識を持たないよう、必要に応じて個別の指導を組み合わせる。	- 実習後には振り返りの時間を設定し、児童の率直な感想や反省を引き出す。 - ICTの課題や作品の発表会を通し、クラスの全児童の作品の良さを共有する。 - 被服実習では自分なりの創意工夫ができる題材を取り入れる。	- 授業のはじめに授業の流れ、今後の予定を伝え、児童が計画をもって安心して課題に取り組めるよう促す。 - 課題が苦手な場合には教卓での個別指導がいつでも受けられることを伝え、必要と思われる児童に声掛けを行う。 - 家庭での聞き取りや手伝いを課題として設定し、主体的な取り組みとして評価する。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- いろいろな動きが経験できるよう、めあてや技能に応じた様々な場を用意することで、児童一人ひとりのつまずきを解消することができた。
- 良い動きをしている児童や運動の工夫・考えを紹介する時間（シェアリング）を毎時間取ったり、ICTを活用したりすることによって、互いに動きや技のポイントを見合い、学びの質や運動技能の向上につながった。
- 学習カードやICTを効果的に活用することで、個人のめあてをもち、目標に向かって学習に取り組む姿が見られた。

(2) 課題

- 持久力、投力がスポーツテストの結果で全国平均を大きく下回っている。投げる機会を設けたり、持久走大会に向けて全校で朝の時間や休み時間に取り組む時間をつくったりすることが必要である。
- 児童同士で運動を見合い、考えを伝え合うことが難しい児童もいる。どこに着目すれば良いか、動きのポイントを学習カードやICTを活用することで的確にとらえさせる必要がある。
- 適切に自己のめあてを設定することが難しい児童もいる。運動の場や学習活動の改善が必要である。

2 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第1学年	• 基本的な動きを身に付けるために、誰もが楽しめる場の設定を工夫し、様々な運動を繰り返し経験をさせる。	• 児童同士での教え合いや協力する時間を授業の中で取り入れて、良い動きを共有し、動きの幅を広げる。 • 集団で仲良く運動ができるように肯定的な言葉かけを行う。	• 全員が楽しみ、達成感を味わうために、誰もが楽しめるルールを工夫したり、ゲーム性を持たせたり、遊びの要素を取り入れる。
	第2学年	• 誰もが楽しめる工夫を行い、一人一人が達成感を味わえるようにする。 • 楽しみながら様々な運動経験をさせ、基本的な動きを身に付けるようにする。特に走・跳の動きを多く取り入れる。	• 児童の良い動きや工夫・考えを共有する時間にできる範囲でICTを活用しながら取り入れ、良い動きを広めていく。 • 自己に適した運動の場を選ぶことができるに、遊びの場を複数用意する。	• 運動遊びにゲーム性を持たせ、意欲的にいろいろな動きが体験できるようにする。 • 友達と関わる機会を多く設けて、誰とでも仲良く活動する楽しさを味わわせ、すすんで運動遊びに取り組む姿勢を育てる。
中学年	第3学年	• 自分のめあてと集団のめあてを明確にし、集団のめあてに合った個人のめあてを立てられるようにする。	• 学習時間に1回は児童同士で運動を見合ったり、考えを共有しあったりする時間を確保する。 • 器械系につながる運動はタブレットで自分の動画をとり確認することで課題を解決できるようにする。	• きまりを意識して取り組むことができるように、自分たちで決まりを決めていく学習スタイルを取り入れる。 • 見通しをもって学習に取り組むことができるように、学習の流れを把握させる。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学 年	第 4 学 年	・個人のめあてを設定することで、高めたい技能を意識させる。 ・児童の実態に合わせた場を準備して、課題解決の時間を十分確保する。	・運動のポイントを意識した指導や助言をする。また、ワークシートや掲示物を用意したり、ICT機器を活用したりして児童が自分でポイントを考えたり、確認したりできるようにする。 ・互いに見合ったりアドバイスしたりする時間を設けることで、運動のポイントを意識できるようにする。	・ペアやトリオ学習を取り入れ、自分だけでなく、他者の取り組みについても考えられるようにする。 ・振り返りや他者の良いところを褒める機会を作り、自ら意欲的に取り組めるようにする。 ・ワークシートなどを準備し、学習の見通しがもてるようにする。
高 学 年	第 5 学 年	・児童が自らの動きを友達と見合ったり ICT を活用したりすることで俯瞰して見ることを通して、高めたい技能を主体的に高めることができるようにする。そのために、場の設定や補助の方法、資料を配布したり、ICT 機器を活用したりする。	・友達と交流することで、自らの考えを伝えたり、アドバイスをもらったりと協働して学習に取り組むように同じめあてや課題をもった児童など意図的に、グルーピングをして交流の時間を十分に設定する。そのためにも、掲示物や資料を用意したり、ICT 機器を効果的に活用したりしていく。	・振り返りの時間を十分に取ることで、次時のめあてを充実させ、自らの学習を俯瞰して見るができるようにする。 ・ルールやきまりを明確に示し、安心して学習に取り組むことができるようにする。ルールを工夫することで、運動が苦手な児童も積極的に取り組むようにする。
	第 6 学 年	・1 単位時間でのめあてを明確に示し、知識・技能の習得に向き合える学習展開を行う。 ・課題解決の時間を十分に確保し、課題別、スモールステップで知識・技能が高められるような場を設定する。 ・ワークシートを活用し、自身の学びを振り返ることができるようにする。	・ワークシートや ICT 機器を活用し、自分の課題と向き合ったり、友達の良いところを見付けたりすることができるようにする。 ・技のポイントが示された資料を用意し、児童が自分自身で確認できるようにする。 ・チームや同一課題をもつグループを設定し、課題解決に取り組むことができるような授業を展開する。	・見通しをもって学習に取り組むことができるように、授業のはじめに学習の流れを伝える。 ・ルールやきまりを明確に示し、安心して学習に取り組むことができるようにする。 ・映像資料を用い、競技の特性を理解する場面を設け、主体的に学習に取り組むことができるようにする。

Tokumochi
elementary school

72th
Since 1952